

余呉小中学校(鏡岡学園)のICT活用

教育情報化コーディネーター (ITCE)

長浜市立余呉小中学校

主任事務主査 松田 幸夫

ICT活用の背景

新学習指導要領にもふれられていますが、主体的・対話的で深い学びの実現や情報活用能力の育成に向けて、さまざまな学習活動でICTを有効に活用していきます。

本校でも、PC教室に30台(学園生1台/学級)、タブレット(win16台・iPad30台)を整備し、学習を支援するツールとして活用します。

特にタブレットは、wifi環境下で運用を行います。個人ベースで使う「思考ツール」とグループ学習で使う「協同ツール」として活用し、「ふかめる」「つながる」「ひろげる」などの視点で活用します。

児童の発達の段階に応じて、言語能力、情報活用能力、情報モラル、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、教科等横断的な視点から主体的・対話的で深い学びへつなげていきます。

今回整備するICT環境

4月～

iPad(30台) wifi環境整備します。
(利用教室のみでの運用)

PC教室は7月末まで既存のPCで運用します。

8月～

PC教室 ディスクトップPC 28+2台 win10
教室 タブレット 16台 win10

8月の整備以降、winタブレットも併用して学習できます。

移動ラックに収納したwifiルーターを経由して、インターネット・プロジェクター提示も可能となります。

また、タブレットにもskymenuと同等品がはいりますので、一斉授業や個別授業等へも対応できます。

もちろんプリンターにも繋がっていますので、児童の学習状況の印刷等も可能です。

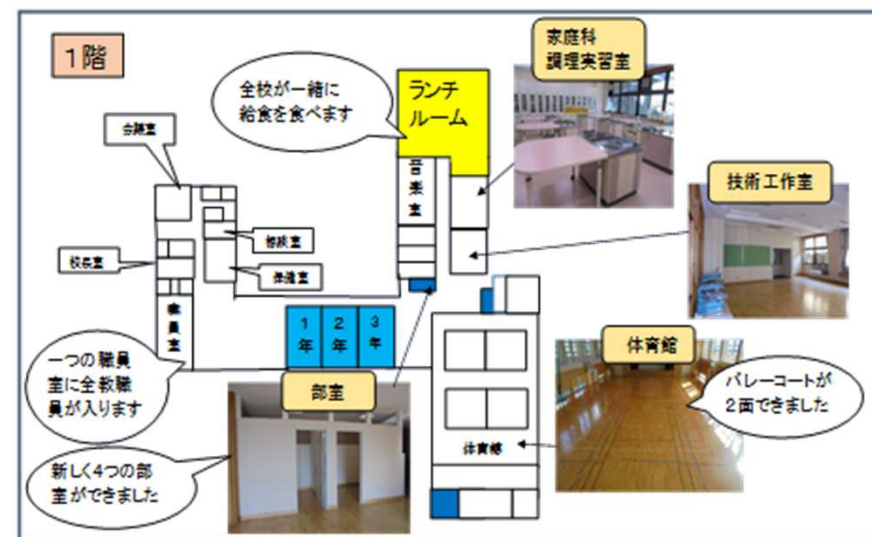
ソフトウェア 前期課程 ジャストスマイル(統合型ソフトウェア)

後期課程 MSオフィス

校舎案内図

施設一体型小中一貫校のメリットを活かすために、創意・工夫して教室を配置しています。

また、本校の教育の重点としてICT教育を設定している。さまざまな学習をサポートするツールとしてタブレットPC(win・iPad)を校内すべてで活用できる学習環境を整えました。



検討課題1

windowsとipad
二つのタブレットが存在することになります。

活用学年をどうしていくか・・・

内容ごとに分けた方が活用の幅が広がるのでは・・・

PC教室のパソコン

- ・情報リテラシーのキーボード入力・模擬スマホ活用
- ・一斉授業で使う前期課程の授業(統合型ソフト ジャストスマイル)
- ・後期課程の技術 オフィス等を利用するため

winタブレット

- ・マッピングや分割提示等を多用する教科
- ・家庭学習サービスの活用
- ・破損の可能性のある授業(5年間は破損保証付き)

ipad

- ・ICTへの興味・関心を高める活動
- ・アプリを使った授業

検討課題2

管理場所をどうするか。
職員室・・・かなと。ただしスペースの関係
で、変更あり。

ラックが同時に入ります。タブレット+電源+wifi
コロコロと押して行くのがいいのか、2階の多目的教室を専用
教室して整備するか・・・。
設置の手間はいいんですが・・・。管理が・・・。

Information Technology Coordinator for Education

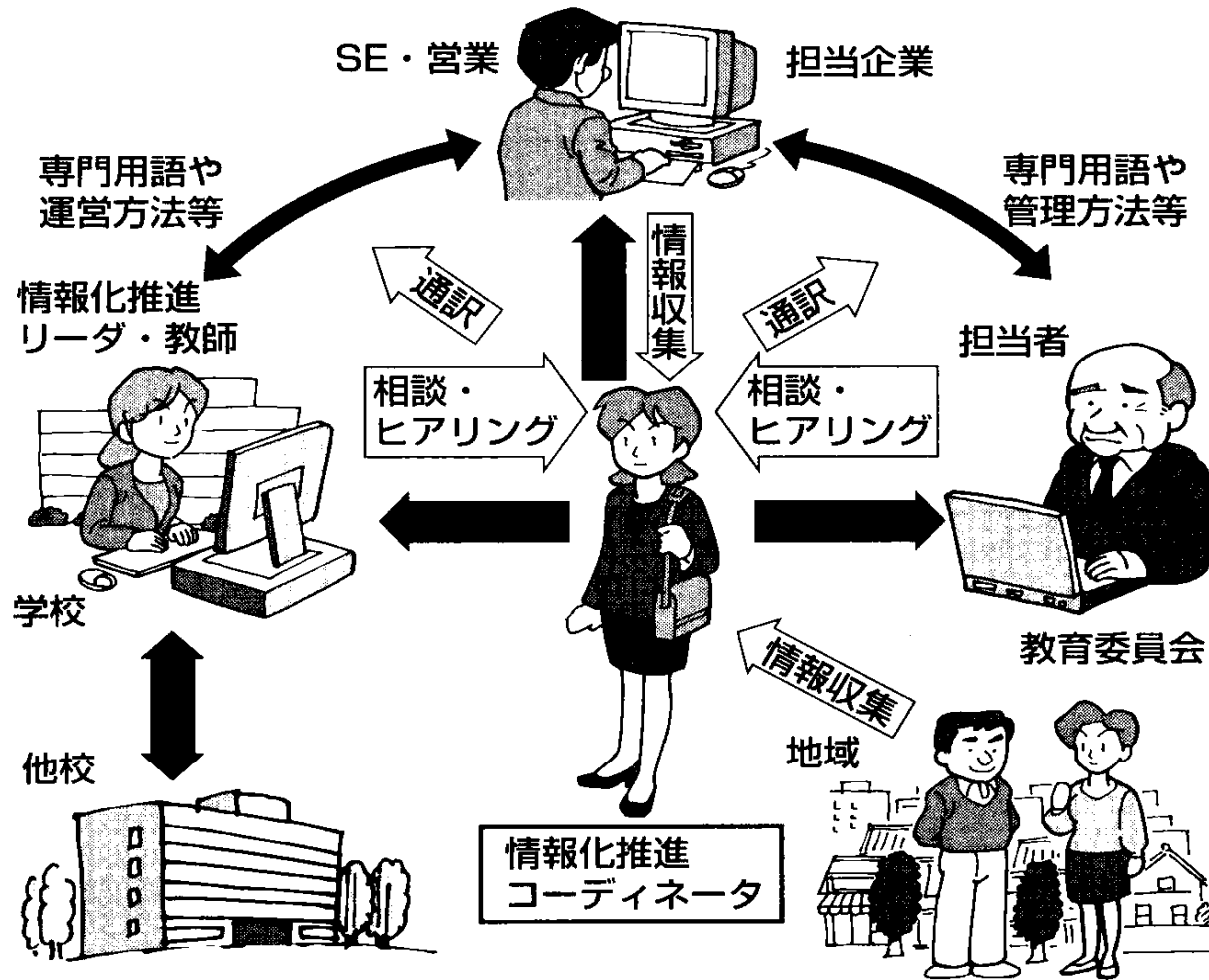


図1 情報化推進コーディネータの役割

教育情報化コーディネーター (ITCE)
長浜市立余呉小中学校
主任事務主査 松田幸夫

教育情報化コーディネーターへの道(高陵社書店)より引用